

# 藤沢市総合計画審議会と地域経営戦略100人委員会との合同協議

と き 2010年(平成22年)7月3日(土)  
午後1時～4時  
ところ 明治公民館 体育室

## 次 第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事
  - (1) 第1部 地域まちづくり計画
    - ア 各地区の中間報告
    - イ 意見交換
  - (2) 第2部 市域全体のまちづくり計画
    - ア 経過報告
    - イ 意見交換
  - (3) 総括
  - (4) その他
- 4 閉会

事務局  
藤沢市経営企画部経営企画課  
電 話 (0466) 50-3502  
ファクス (0466) 50-8402  
e-mail kikaku@city.fujisawa.kanagawa.jp

## 戦略目標及び戦略目標の説明について

### 【都市ビジョン1】 市民生活の力が育てる生活充実都市

#### 1 地域自律型の「藤沢づくり」を育むまち

地域の歴史・文化や地域資源を活かして、地域に住み、働き、学ぶ人たちが協働して、地域から生み出す付加価値を享受するために、各地区ごとに個性のある地域経営を進めるとともに、行政は財政改革と行政改革を進めるとともに、新たな行政システムを構築し、市民、地域と協働して市民主体、地域自律型の「藤沢づくり」をめざします。

<行政政策の棚卸内容>

- ・ 市民が生活の中でITの利便性を実感できること。
- ・ 市民に信頼され、効率的、効果的な行政サービスを実現すること。
- ・ 地域で協働して、暮らしやすいまちがつけられること。
- ・ 地域主体のまちづくりが推進されること。
- ・ 誰でも気軽に市の情報を得られること。
- ・ 様々な連携によって、市民が望むサービスがまちにあること。
- ・ いろいろな人が公共サービスを提供し、生活が便利になること。
- ・ 市民のプライバシーが保護されること、
- ・ 多くの市民が市政に参加できること。
- ・ 地区毎のきめ細かなまちづくりが行われること

#### ふじさわ未来課題 5\_地域で協働して、暮らしやすいまちづくり活動が行われていること

#### 戦略目標 01\_市民、地域と行政が育む、暮らしやすさを実感できるまち

少子化、高齢化と人口減少社会の到来により、今までの経済成長や税収の伸びを前提にした社会資本の整備、多様化する市民ニーズや生活の豊かさを、すべてを行政が主体となって実現していくことは大変困難な状況となっております。

これらの状況を解決していくためには、「私たちの政府」が創る藤沢づくりの理念のもとづき、新しい公共と地域分権を築くことにより、20年後を見据えた豊かな公共が実現されます。

そのためには、藤沢の持つ市民力・地域力を活用し、かつ藤沢の魅力を高め、価値を創造することによって、藤沢力を磨き、鍛えていく必要があります。

私たちは、29年に及ぶ市民自治の実績に基づき、市民、市民ボランティア、NPO、大学、企業と行政が協働・連携し、新しい地域経営を実現することによって、生活実感のある暮らしやすさの向上と持続可能な藤沢づくりを進めていきます。

<各部門の政策案>

- ・ 地域の様々な主体および行政が、相互に連携、協働して情報化を推進することにより、市民サービスの向上や業務の効率化を図る。
- ・ 既存広報メディアの再評価及び新たな広報メディアの活用により、広報活動の再構築を図り、市政情報の積極的な発信を行う。
- ・ 市民生活を豊かにするため、市民活動が活発に行われるよう、市民活動団体を育成、支援する環境を整備する。
- ・ 13地区の地域経営会議の円滑な運営を図り、それぞれの地区で地域主体で、地域の個性を生かしたまちづくりが推進できる環境を整える。

ふじさわ未来課題 7\_お互いがマナーを守り、助け合いの心で過ごせるまちであること

戦略目標 02 未来を拓く「藤沢づくり」を支える新しい公共のまち

豊かな公共をめざして、未来を拓く藤沢づくりを実現していくためには、行政経営という新しい発想が求められています。

行政経営とは「画一から多様」「集権から分権」「管理から自治」「受動から能動」「模倣から創造」「依存から自律」「個から連携」へ理念、手法を転換することです。

そのためには、行政は行財政改革、新しい公共と公民連携、クリーンな市政と情報開示、スクラップ・アンド・ビルド改革など推進し、行政自らが変革を図ります。

また、近隣自治体との広域連携や市民・地域と行政の協働のしくみづくりを通じて、市民主体、地域自律型の藤沢づくりをめざします。

<各部門の政策案>

- ・ 施策又は事業に応じた連携主体、連携体制を構築し、効率性や市民への効果等を鑑み、一層の連携を進める。
- ・ 市民共有の知的資産としての公文書等の適正な保存管理と利活用を図り、公正かつ効率的な市政運営に資するとともに市の有するその諸活動を現在及び将来の市民に説明する責務が全うされるようにする。

## 2 明日の藤沢を担う「藤沢の子どもたち」を育む環境

明日の藤沢を担う「藤沢の子どもたち」を育てていくため、安心して子どもを産み、育てられる生活環境や多様な教育ニーズへの対応、家庭・地域・学校の教育連携など、教育環境を持続・発展させることをめざします。

<行政政策の棚卸内容>

- ・ 援助の必要な児童とその家庭に適切な支援が行き届くこと。
- ・ 安心して子どもを産み健やかに育てること。
- ・ 青少年が自ら学び、社会に参加し、さまざまな人と協働しながらコミュニティを形成し、担っていく存在に育っていくこと。
- ・ 「愛と信頼にあふれ 子どもが健やかに育つまち ふじさわ」を構築すること
- ・ 学校からの情報発信が促進され、地域との連携がより強化されること
- ・ 給食をとおした食育の充実を図り、学校給食から「健康都市ふじさわ」が実現されること。
- ・ 多様な教育的ニーズに応じられる教育環境の整備がなされること
- ・ 質の高い教師が育成されること
- ・ 地域の教育力の活用と子どもたちの生きる力を育むこと
- ・ 教師が子どもに向き合う時間が確保されること
- ・ 学校からの情報発信が促進され、地域との連携がより強化されること
- ・ 各学校における特別支援教育体制の充実と、多様な教育的ニーズに応じられる教育環境を整備すること
- ・ こどもたちが健全に成長することで、力強く明るい社会が実現されること。
- ・ 地域を愛し、社会に貢献できる子どもを育成すること

### ふじさわ未来課題 8\_市民自ら、人にやさしい手をさしのべること

(関連未来課題 9)

### 戦略目標 03\_子どもを安心して産み育てられるまち

少子化の進展は、労働人口の減少や経済の停滞等を生じ、地域構造のバランスを崩し、藤沢全体に様々な影響を及ぼします。

明日の藤沢づくりの担い手は、子どもたちです。

子どもを安心して産み育てられるまちにしていくためには、子育ての不安を解消し、安心して子どもを産み、育てられる生活環境や多様な教育ニーズへの対応が求められています。

そのためには、市民・地域と行政が協働・連携して、明日の藤沢を担う子どもたちが元気に育つ環境、子育て支援のしくみ、教育環境などを形成することによって、子や孫やこれから生まれてくる子どもたちのための藤沢づくりを進めます。

＜各部門の政策案＞

- ・ 安全な妊娠・出産から子どもの心身の健やかな発達の支援に向けた取り組みを推進し、親子の健康の確保と増進に努める。
- ・ 虐待や障がいなど、特別な関わりが必要な児童や家庭への連携した相談支援を推進する。
- ・ 地域における子育て支援サービスや保育サービスを充実し、子育て支援のネットワークづくりや児童の健全育成を進め、すべての子育て家庭への支援を充実する。
- ・ 児童生徒が生きる力を身につけ、健やかに成長するよう学校教育の充実を図るとともに、開かれた学校づくりを推進する。
- ・ 児童・生徒等の安全と快適な教育環境を確保するとともに、省エネ化・低炭素化の時代に対応した校舎等へ改築や整備を進める。

ふじさわ未来課題 14\_学校・家庭・地域のつながりを育む活動が活発であること

戦略目標 04\_身近な場所で地域ぐるみの子育てができるまち

核家族化の進展、一人っ子世帯の増加、働きながら子育てをする家庭の増大など、子育てをする家庭環境は大きく変貌しています。

また、高齢化社会の到来によって、地域にはたくさんの子育ての経験豊かな市民も多くいます。

明日を担う子どもたちは、藤沢の財産です。

このような地域社会の状況変化を踏まえ、子育ては家庭はもとより、地域や学校、多くの市民や地域を支える自治会・町内会、ボランティア、NPO、教育機関、企業などと行政が連携・協働して、子どもたちを地域ぐるみで育て、教え、見守る子育て支援のしくみづくりが求められています。

また、青少年育成のためには、市民力・地域力・教育力を活かして、青少年の健全育成のための環境づくりを進めていきます。

＜各部門の政策案＞

- ・ 市民力・地域力を活かした青少年の健全育成のための様々な活動により、青少年の豊かな心と生きる力を育む。

### 3 市民力・地域力による安全で安心して暮らせるまち

コミュニティを維持・発展させ、市民が一生安心して暮らせる保健・医療（介護）・福祉・健康などの生活環境と、犯罪や災害への不安解消などによる、安全で安心できる地域社会を創り上げることをめざします。また、病気の予防やスポーツなどを通じた身体的な健康のみならず、心も健やかであるために、生き生きと安心して暮らせる私たちの健康づくりをめざします。

＜行政政策の棚卸内容＞

- ・ 市民力・地域力である地域防災力により、安全で安心して暮らせるまちであること。
- ・ 犯罪機会論による防犯活動の推進
- ・ 自立した消費者の育成
- ・ 安全な近隣社会の構築の推進
- ・ 迅速に適切な医療が受けられること
- ・ 高齢者や障がい者等が、地域の協力により安心した生活を営むことができること。
- ・ 在宅による看護や介護を市民が安心して受けられ、安定した市民生活を送れること。
- ・ 障がいのある人が地域で生きいきと暮らすことができるようになる
- ・ 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせること。
- ・ 健康増進と安全の確保がはかられること。
- ・ 生活困窮者が最低生活を営むことができ、就労支援により自立の助長が図られること。
- ・ からだも心も元気であること、自分自身が健康だと思えること。
- ・ 高齢者が一生安心して自立した生活を営むことができること。
- ・ 住宅困窮者の多様化と住宅セーフティネットの進化
- ・ 市民が安全で安心して暮らせるまちとなること。
- ・ 安全・安心の都市づくりに対する満足度のあり方
- ・ みどり豊かな憩いと潤いのあるオープンスペースづくり。
- ・ いつでも、だれでも、どこでもスポーツを楽しみ、健康づくりができる環境
- ・ 市民力・地域力により良好な住環境を確保することなど、市民主体のまちづくり活動が行われること
- ・ 健康で生活できること。
- ・ 災害時の避難場所を確認しあうこと。
- ・ 近隣市町と連携して、効果的、有効的に公共資産（消防力）が活用されること
- ・ 市民、地域、企業等と連携して、災害被害を減災すること
- ・ スポーツを通じて体力や競技力の維持・向上を図り、全ての市民が明るく、健康的な生活を送れること。
- ・ こどもから大人、高齢者までが、スポーツを通じて、明るく健康な生活を送れること。
- ・ 施設の整備、体制強化を図り、滞りのない火葬執行体制を提供すること。

## ふじさわ未来課題 18 災害に対して、市民が不安なく暮らせるまちであること

(関連未来課題 19)

## 戦略目標 05 災害や犯罪に対して不安なく暮らせるまち

コミュニティを維持発展させ、市民が安全・安心に暮らせる藤沢づくりは重要な課題です。

地球環境や自然環境の変化によって、地震、津波、風水害などの災害や都市構造の変化、高齢化社会の到来などにより、様々な災害の要因が生まれています。

また、核家族化、高齢者世帯や共働き世帯の増加、都市環境・都市活動の変化などが要因となって、様々な犯罪も発生しています。

更に、自動車社会の進展により、多様な交通事故や交通問題が惹起しています。

身近なコミュニティにおいても、人と車、自転車が共存する安全・安心な環境が求められています。

そのためには、市民・地域と行政が協働・連携して築き上げてきた防災力を活かして、災害に対しての備えや被災したときの体制、緊急支援活動の充実によって、生活の不安を解消し、日常生活においても安全・安心な体制づくりをめざします。

加えて藤沢の持つ消防力、救急力を活かし、かつ近隣の市町との消防広域連携によって火災予防、火災対応を充実させ、機能強化を図ります。

また、事故や犯罪についても、市民・地域と行政が協働・連携して、築き上げてきた安全・安心のしくみを活かして、更なる地域ぐるみでの安全・安心な環境づくりをめざします。

## ＜各部門の政策案＞

- ・ 地域市民と各地区防災拠点との連携により、藤沢市全体の地域防災力の強化を図る。
- ・ 現在の消費生活相談体制に加え、巡回相談や拠点となる市民センターで相談を開催し、相談の充実を図り、さらに市民への情報提供を行い、啓発強化に努める。
- ・ 市内14地区の防犯計画に基づき、警察や関係団体と連携した地域防犯活動などの防犯対策に取り組むことにより、市内の刑法犯認知件数の削減を目指す。
- ・ 住宅の耐震診断を実施し、必要に応じた耐震改修や建て替えを促進し、住宅の耐震性を確保するとともに、土砂等災害が生じるおそれがある区域指定（県知事指定）、住民への情報提供を行うなど、災害の予防を図る。公共施設については主管課にて施設の全体計画を立て、計画に合わせた補強計画を検討し実施を図る
- ・ 河川・下水道、さらには歩道設置等の都市基盤施設の整備・改良の推進により、浸水・地震対策等の自然災害や交通事故等の都市災害に強いまちづくりを実現する。
- ・ 消防施設や消防装備の効果的な整備及び消防職員のレベルアップに取り組み、消防力の向上を図る。
- ・ 各地域に住民も使用できる防災資機材を配備し、地域防災拠点の整備を図る。また、市民に対する救命講習に加え、市内市立中学校に対する応急手当教育を実施し、応急手当の普及啓発を推進する。

## ふじさわ未来課題 23.福祉が充実し、子どもから高齢者まで守られていること

(関連未来課題 17)

## 戦略目標 06.保健、医療、福祉、健康などの生活環境が整ったまち

すべての人が生涯を通じ、いつまでも住み慣れた地域で、からだも心も元気で、いきいきと暮らし続けることは、私たちの願いです。

この願いを実現するため、市民・地域と行政が協働し、病気の予防や心も健やかであるための健康づくりを進める必要があります。

市民は、生涯を通じた健康を自らつくり、家庭ではぐくむとともに、地域では、人と人とのつながりや地域の活力をいかして、互いに健康を支え合うことが大切です。

行政は、市民・地域の健康を支えるために、保健・医療（介護）・福祉・健康・食育・スポーツ・安全・安心な環境づくりを推進していきます。

また、少子高齢化社会の到来を踏まえ、皆が明るく豊かで生きがいを持って、生き生きとした生活を送ることができるよう、生活者の実感を大切にしながら、市民・地域と行政が協働・連携して、保健・医療（介護）・福祉・健康などの新たなセーフティネットの構築も進めていく必要があります。

## ＜各部門の政策案＞

- ・ 障がいのある人が地域で安心して暮らせるよう、障がいのある人や家庭への支援を充実する。
- ・ 高齢期の生きがい確保と自立への支援を推進するとともに、地域福祉サービスの質的向上と多様性の推進を図る
- ・ 健診体制の充実と市民が取り組む健康づくりを支援するとともに、ウィルス検査体制の充実など保健所機能の強化を図る。
- ・ 2市1町を中核とした各医師会を基盤として、公立病院に徳州会病院を加えた拠点病院を中心に、周産期医療(救急を含む)や災害時救護体制を整備する。
- ・ また、医療従事者の確保を図るため、2市1町を含めた広域連携により対策を取るとともに、国(地域医療再生計画等)、県とともに事業展開を図る。
- ・ ①住宅に困窮する低所得者(社会的弱者)が、安全・安心な自立した生活を過ごせること。
- ・ ②住宅困窮者の多様化と多様化する住宅ニーズへの対応。
- ・ スポーツイベントの充実及びスポーツ施設の整備を推進し、市民のスポーツ実施率を高め、健康体力の維持増進と競技力の向上を図る。

## 【都市ビジョン2】 地域から地球に広がる環境行動都市

### 4 共に生き、共に創る地域社会の創出

すべての市民が、差別や偏見を持つことなく、互いを認め合い、共に生き、働き、学ぶことができる豊かな生活環境を実現するため、それぞれの人権を尊重し、男女が共同で参画し、高齢者、若者なども積極的に参画できる、多文化の共生する穏やかな地域の社会環境を創り出すことをめざします。

<行政政策の棚卸内容>

- ・ 人と動物が共生できること。
- ・ 読みたい、知りたい、学びたい、聴きたい、観たい、交流したい、参加したい…市民が望む豊かな図書館サービスを創出すること。
- ・ 生涯学習によって誰もが参画・参加できる社会をつくること
- ・ 地域の大人たちみんなで子どもを育む社会をつくること
- ・ 学びたいときに・学びたいことについて必要な情報が得られること
- ・ 市民の生涯学習ニーズに対応した生涯学習情報の提供ができること。
- ・ 施設利用者が安全に、そして安心して学習活動ができること。
- ・ いつでも、どこでも、だれでもが必要な情報が入手できること
- ・ 近隣市町等との連携、関係機関とのパートナーシップに基づき、若年者、障がい者、ニート・フリーターが就労等社会的自立に向けた多様なサービスの充実が図られること。

### ふじさわ未来課題 24\_挨拶や声かけによる市民同士のコミュニケーションがとれていること

(関連未来課題 26, 29, 31)

### 戦略目標 07\_一人ひとりの個性を尊重し認め合う、心の通うまち

国際化や価値観の多様化、ひとり暮らし世帯の増加と核家族化の進展の中で、市民一人ひとりの個性と人権が尊重され、認め合うことで、心豊かな社会や生活環境の価値向上がいま求められています。

家庭内暴力やいじめ、差別、セクシャルハラスメントなどがなく、ワークライフバランスや男女共同参画社会などの実現を図るためには、性別、世代、格差、国籍、ハンディキャップなどを超えて、互いに尊重し、共に生き、共に創る地域社会を創出していく必要があります。

そのためには、市民・地域と行政が協働・連携して、一人ひとりの個性を尊重し、人権を認め合い、多文化が共生し、男女共同参画をめざした藤沢づくりを進めます。

<各部門の政策案>

- ・ いじめや差別、暴力などがなく、性別、世代、格差、国籍、ハンディキャップを越え

て、互いに尊重し、共に生き、共に創る社会を推進する。

ふじさわ未来課題 32\_人々が交流して、平和でぬくもりのある社会であること

戦略目標 08\_人々が交流して、平和でぬくもりのあるまち

平和な社会は、藤沢市民の願いです。

藤沢市は、「藤沢市核兵器廃絶平和都市宣言」や「藤沢市平和基金条例」「藤沢市核兵器廃絶平和推進の基本に関する条例」を制定し、市民・地域と行政が協働・連携して、恒久平和をめざして、様々な平和運動を推進してきました。

また、航空機騒音などに対する諸問題解決に向けて、様々な活動も進めてきました。これまで蓄積してきた平和などに対する思いをさらに深化させていく必要があります。

一方、藤沢は様々な海外都市との交流をはじめ、都市間交流も活発に行われてきました。

藤沢に生きた人々の歴史とそこから生まれた文化を探求し、継承するとともに、多文化が織りなす交流を通じて情報を共有し、地域ぐるみでの交流活動をさらに発展させ、新しい文化交流へとつなげていくことが求められています。

市民・地域と行政が協働・連携して、都市間交流を活発化させ、海外都市、外国籍市民との交流によって、多文化が共生し、平和で穏やかな地域社会を創り出す藤沢づくりを進めます。

<各部門の政策案>

- ・ 市民・市民ボランティア・NPO・大学・企業等と行政が協働する事業展開により、国際交流の活性化を図る。

ふじさわ未来課題 34 地域で支え合い暮らせる環境であること

(関連未来課題 30)

戦略目標 09 地域で支えあう共生するまち

地域分権を通じて、地域で支えあう共生するまちを実現していくためには、藤沢の市民自治の歴史と蓄積を活かし、市民・地域が協働・連携して、地域コミュニティを豊かにしていく市民主体のまちづくりを進めていくことが重要です。

そのためには、市民一人ひとりの支えあい、自治会・町内会など身近な地域での支えあい、ボランティア団体、NPO、大学、企業などによる社会貢献活動が相互に連携・補完する、個性豊かで地域が生き活きとした、生涯を通じて一人ひとりが生きがいを持って暮らすことができる藤沢づくりを進めます。

また、行政は、地域で支えあい共生するまちを実現するために、地域に根ざした市民ボランティアやNPOなどを育成し活動を支援するための様々なしくみを構築します。

<各部門の政策案>

- ・ 地域とのつながりの中で、誰でもが自分らしく暮らせるよう、地域に根ざした市民ボランティアやNPOを育成・活動支援する。
- ・ 「市民主体による運営」を推進するとともに、「だれもが・いつでも・どこでも・学びたいことが学べる」学習環境の整備を図る。
- ・ 学校・家庭・地域の連携を促進し、地域のつながりを育む活動を支援する。

## 5 豊かな地域資源の次世代への継承・発展

藤沢の自然環境、景観、歴史・文化資産など、先人から引き継いできた地域固有の資源をさらに発展させ、次世代に継承することによって都市としてのアイデンティティを高め、地域資源を活かしたまちをつくることをめざします。

＜行政政策の棚卸内容＞

- ・ すべての市民が明るく、文化的な生活の中で、一生住み続けたいと思えるような社会が実現すること
- ・ 歴史文化が継承され、創出されること。
- ・ 市民主体のまちづくりを進め、良好な景観形成を図ると共に湘南海岸などの観光地として魅力を高めること。
- ・ 農・工・住が共存する環境と共生したまちづくりを進め、良好な景観形成を図ると共に湘南海岸などの観光地として魅力を高めること。
- ・ いつでも地域の文化遺産にふれることのできる博物館・収蔵施設があること。
- ・ 地域の歴史・文化が継承されること
- ・ すべての市民が明るく、文化的な生活の中で、一生住み続けたいと思えるような社会が実現すること。
- ・ 文化の薫るまちづくりにより、子どもから大人まで心豊かな生活を享受し、一生住み続けたいまちづくりを行うこと。

### ふじさわ未来課題 37 市民、地域、行政が協力し、快適な生活が実現していること

(関連未来課題 35, 36, 39, 49, 41, 43)

### 戦略目標 10 豊かな自然環境と地域資源を守り発展させ、次世代に継承するまち

藤沢には、湘南海岸や引地川、境川の水辺環境、川名緑地をはじめとした里山がいまに残る三大緑地などの自然環境、北部を中心とした自然豊かな田園環境、また地域の歴史や文化に育まれた次世代に継承する大切な地域資源があります。

これらの地域資源は、長い年月を経て先人たちが創り、育て、守ってきた、貴重な市民共有の財産です。

これらの地域資源を保全、再生、発展、継承することにより、湘南の自然環境と歴史文化がいきづく、将来にわたって住み続けたい、藤沢に住みたい、藤沢で活動したいと感ぜられる藤沢づくりを進めます。

＜各部門の政策案＞

- ・ 市内に残された三大谷戸をはじめとする貴重な緑地を（制度の導入を図り）保全。

## 戦略目標 11 愛着と誇りの持てる景観の保全と創造するまち

藤沢の自然、歴史、文化の蓄積と市民との協働によるまちづくりの進展、都市魅力の発信によって、湘南藤沢のイメージが培われてきました。

その反面、地域の個性や愛着、アイデンティティが見えにくい側面も生まれています。

愛着と誇りの持てる景観の保全と創造のまちを実現していくためには、都市全体を印象付ける自然環境や都市環境を保全、形成していくとともに、ブランド力により磨きをかけ、かつ身近な地域での愛着と誇りを感じる地域景観の保全、形成を進めていく必要があります。

藤沢で培ってきた景観づくりや自然環境の保全、形成のしくみや蓄積をさらに深化させ、様々な人々を湘南藤沢に惹きつけていく魅力を高めるために、市民・地域と行政が協働・連携して、景観の保全と創造による藤沢づくりを進めます。

<各部門の政策案>

- ・ 地域住民の発意と合意により、都市計画法、景観法、建築基準法等を活用し、地域の特性を生かした良好な住環境の維持・保全や調和のとれた景観づくりを促進する。

## ふじさわ未来課題 45 地域の未来の担い手が育成されていること

### 戦略目標 12 未来の担い手が育つまち

藤沢には、市民力、地域力が満ち溢れています。

この藤沢の大切な「力」を活かして、次世代の藤沢づくりの担い手を生み、育て、引き継いでいくひとづくりが、いま求められています。

未来の担い手が育つまちを実現していくためには、様々な人生を経験してきた市民の経験力、地域の文化を継承、発展させてきた地域の継承力、ボランティア、NPO活動によって培われてきた地域貢献力、大学、企業などが地域と協働する社会貢献力、これらを支える行政力などが必要です。

このような「力」が協働・連携し、子どもたちやすべての世代が、未来のまちの担い手として活躍できる活動を推進します。

<各部門の政策案>

- ・ 新総合計画で掲げる持続可能な市民主体のまちづくりを進めるための担い手の育成を図る。

## 6 地球温暖化防止など未来の地球環境への投資

地球温暖化などの環境問題やエネルギー・食糧などの資源にかかわる課題について、地球規模の視点に立って地域で取り組み、持続可能なまちと低炭素社会をつくりあげることがめざします。また、地域の大学力や企業力を活かして、産学官による協働と連携によって、最先端の環境技術を生み出す産業構造や環境に優しい都市システムを創り出すことをめざします。

<行政政策の棚卸内容>

- ・ 良好な生活環境が確保されること。
- ・ 海・里山・川の自然に触れること
- ・ 環境負荷の軽減，次世代に向けてみどりを守り，増やす。
- ・ みどりを守る，つくる，育てる，広めること。
- ・ 温室効果ガスの削減により持続可能な低炭素社会に向け活動を続けること。
- ・ 次世代へ自然景観を引き継ぐこと。

### ふじさわ未来課題 49\_人々の環境への意識が高く、快適なまちであること

#### 戦略目標 13\_環境への負荷を軽減し、未来につなげる循環型社会の実現に取り組むまち

湘南の豊かな自然、環境、文化を次世代に継承していくためには、「将来世代へのニーズを損なうことなく、現在の世代のニーズを満たすこと」を基本にして、地球規模の視点に立って、地域で取り組む循環型社会の実現がいま求められています。

そのためには、市民・地域と行政が協働・連携して、未来につなげる循環型社会のしくみづくりが必要となります。

また、近隣市町との広域連携によって、環境への負荷を軽減するための、様々な施策の共有を図り、実践するとともに、身近な生活や都市活動の中から環境を考え、自らが実践することによって、持続可能な循環型の藤沢づくりを進めていきます。

<各部門の政策案>

- ・ 近隣市町との広域的連携により，環境に配慮した廃棄物処理施設の建設及び施設を利用した3Rの推進を図る。

**戦略目標 14 地域から低炭素社会をめざし、行動するまち**

地球温暖化などの環境問題やエネルギー問題など資源に関わる問題は、喫急の課題です。

この課題を解決していくためには、省エネ、創エネ、蓄エネ、活エネ、エネルギーマネジメントの視点に立って、市民、ボランティア活動団体、NPO、大学、企業などと行政が協働・連携して、自らができることから実践し、その積み重ねが地域に広がり、環境ネットワークを構築し、かつ新たなエネルギー技術とITによるしくみを創出することにより、地域から低炭素社会をめざした藤沢づくりを進めていきます。

<各部門の政策案>

- ・ エネルギーの効率化と代替化の推進し、次世代型のエネルギー利用社会へとシフトする。

**戦略目標 15 環境に優しい都市システムを創造するまち**

公害の防止、廃棄物の発生の抑制と減量化、資源の循環利用、廃棄物の適正処理と環境美化及び化石燃料を消費する交通システム、家庭、事業所における温室効果ガスの排出削減、公共用水域の水質保全など、都市環境に影響する様々な環境問題が惹起されています。

この問題を解決するためには、市民・地域と行政が協働・連携して、環境にやさしい都市システムを創造していく必要があります。

<各部門の政策案>

- ・ 地域市民やNPO団体等との様々な連携により、環境美化の推進と意識啓発を図ることで、市民生活の質を高める。
- ・ 地域市民やNPO団体等及び事業者との様々な連携により、徹底した廃棄物の発生抑制と減量及び新たな技術の導入による資源化の推進を図る。
- ・ 大気、公共用水域、地下水の環境基準を達成している項目については継続して環境基準の達成を維持し、未達成の項目については環境基準を達成する。
- ・ 公共下水道（污水管・浄化センター等）整備、合併処理浄化槽の排水処理施設の整備・普及により、水再生・水循環型都市づくりを実現する。

## 【都市ビジョン3】 さらなる可能性を追求する創造発信都市

### 7 「藤沢づくり」を支える都市構造の再構築と地域経済の活力再生

産業や生活の基盤を支える都市機能を強化していくために、新たな拠点地区の整備や連携する道路、鉄道等の公共交通、海上交通のネットワーク化など、土地利用の方向性も含んだ「新たな都市構造の再構築」をめざします。また、産業の活力を高め、雇用の機会を増やし地産地消の推進を図るため、市民、地域の持つ資源を活かしつつ、商業、工業、観光、農水産業など、市民力、地域力、大学力、企業力などの連携によって地域経済の活力再生をめざします。

＜行政政策の棚卸内容＞

- ・ 歩道が広く安心して歩くことができること。
- ・ 新鮮で安全・安心な農産物を市民に提供することで、地産地消を推進し、農業者の経営安定を図り、市民の食生活をささえることができること。
- ・ 時代に即した交通体系の実現に向けた取組を進め、市民の重要な移動手段である公共交通の安定した供給がなされ、道路や交通のネットワーク整備されることにより、快適な移動が確保されること。
- ・ 農・工・住が共存する環境と共生したまちづくり
- ・ 広域連携による交通のネットワーク化 雇用機会の確保
- ・ 「観光立市 湘南藤沢」の継続的な発展により地域経済が活性化すること。
- ・ 研究開発型の新たな産業集積に取り組むと同時に地元中小企業がいきいきと活躍できるように支援することによって地域経済をもっと活性化すること。
- ・ 地域コミュニティの中心的存在としての機能を市内各商店街が取り戻すとともに、市内商業全般の活性化が図られること
- ・ 藤沢の中心地として、ふさわしい機能、賑わいを取り戻すこと。
- ・ 市街化調整区域の特定の幹線道路沿道等において、一定の土地利用を許容することにより、安定した農業経営が継続できること。
- ・ 既存の商店街と複合的・専門的な大型商業施設との共存
- ・ 広域的な都市機能の形成
- ・ 藤沢・辻堂・湘南台の各都市拠点を中心とした市民の利便性の向上
- ・ 藤沢駅を中心とした市民の利便性の向上
- ・ 災害に強いまちづくりとともに、環境やスポーツなどへの複合的な投資効果に寄与すること。
- ・ 持続可能な都市環境の構築により良好な生活環境が維持されること。
- ・ ライフサイクルコストを考慮した都市基盤整備により生活環境が向上すること。
- ・ 交通が便利なこと。
- ・ 広域連携による交通のネットワーク化
- ・ 雇用機会の確保
- ・ 近隣市や町と藤沢市が連携して、いろいろな行政サービスが受けられること。
- ・ 市内産業の活性化により市税収入が増となるよう、税制上の方策について検討する。

## ふじさわ未来課題 61\_観光により地域が元気になること

### 戦略目標 16\_多様な地域資源を活かした観光立市のまち

藤沢は江戸の昔から「江ノ島詣」を通じて、江戸庶民の観光地として栄え、戦前戦後を通じて、歴史と文化の江の島、海洋レクリエーション拠点の湘南海岸を中心に首都圏の身近な観光拠点として、年間1,000万人を超える観光客が訪れる観光地として発展してきました。

近年の国民の観光・レジャーに対する多様なニーズの変化や、東南アジアを中心とした外国人観光客の増加などを踏まえ、観光立市としての新たな観光戦略が求められています。

そのためには、藤沢の自然、歴史、文化と今まで培われてきた交流文化、湘南ブランドを活用し、市民が身近なまちの地域資源や素晴らしさに触れ、余暇時間の活用や生涯学習などを通じて、市内観光の魅力を再発掘、再発見することが必要です。

また、湘南ブランドの魅力を高め、多様な地域資源と市民のおもてなし文化を通じ、南北縦断観光機能の強化によって、海外、国内からの観光誘客を図り、あわせて誘客観光産業を育成し、多様な地域資源を活かした観光立市のまちづくりを進めます。

<各部門の政策案>

- ・ 新たな観光資源の開発と外国人観光客の誘致活動を実施し、広く宣伝活動を行うことで誘客を図る。

## ふじさわ未来課題 62\_産業の活力を高め、地域が元気になること

(関連未来課題 59, 60, 64, 65)

### 戦略目標 17\_新しい産業の興る活力あるまち

藤沢は、戦前戦後を通じて東海道沿線や北部地域を中心に、製造業を中心とした産業が立地し、日本でも有数な工業都市として発展してきました。

しかし、経済活動のグローバル化、産業構造の変化は、藤沢の製造業を中心とした産業構造にも大きな変化を与え、産業の空洞化による製造品出荷額の減少、雇用の減少による市民の働く場の喪失が生じています。

この問題を解決するためには、藤沢の持つ都市インフラなどの強みと、大学力、企業力、市民力を活かし、また今まで培ってきた多彩な人材、知財資源を活用して、ベンチャー企業、ソーシャルビジネスの育成や研究開発機関の誘致、新たな産業の創出による創業、起業、経営革新を促進し、地域経済の活性化をはかり活力ある藤沢づくりを進めます。

<各部門の政策案>

- ・ 広域的な産学官民連携により、ベンチャー企業の育成や中小企業のイノベーション創

出を支援し、新産業の創出を図る。

- ・ 都市間あるいは地区間を連絡する幹線道路の整備を図る。

#### 戦略目標 18\_市民生活を支える産業の活性を高めるまち

藤沢は、農業、水産業、商業、工業の4つの機能を有した、バランスのとれた産業活動の溢れるまちです。

しかし、農水産業の担い手不足、都市農業における耕作放棄地への対応、沿岸漁業における流通販路の確保などの課題が生じています。

また、少子高齢化社会や近隣都市の商業機能の集積、商業機能の郊外出店などによって、藤沢の商業環境は大変厳しい状況にあり、大型店や地域コミュニティの場など一体となった生活者の視点に立った商業機能の再構築が必要とされています。

そのためには、市内産の安全・安心な農水産物の安定供給と地産地消にむけた流通システムの再構築を図ることにより、生産者と消費者を結ぶしくみづくりを生産者、流通業者、消費者と行政が協働・連携して進めていきます。

また、地域の特性や市民ニーズを踏まえ、地域資源などを活用し、大型店と商店街が共存できる、地域に密着した活気ある商業環境の構築を進めていきます。

##### <各部門の政策案>

- ・ 地域の特性やニーズを踏まえ、地域資源などを活用し地域に密着した活気のある商店街づくりを進めるとともに、大型店や地域コミュニティの場など一体となった「生活街」としての商業集積を進める。
- ・ 企業立地支援策の充実などにより、市外からの企業誘致と既存企業の市内再投資を促進（市外転出防止）するとともに、市内取引の拡大や従業員の定着を図り市内中小企業の活性化及び経営の安定を図る。
- ・ 市内産の安全安心な農水産物の市内流通の仕組み作りを進めるとともに消費者への普及啓発を行い、地産地消の推進及び市内農水産業の活性化を図る。

**戦略目標 19 産業や生活基盤を支える、都市構造を構築するまち**

都市内外にわたる産業活動や市民の生活活動などを支え、多様な交流、連携の創出に向け都市拠点間を結び、活力を創造する交通骨格のネットワークの再構築が求められています。

また、都市拠点では、社会潮流の変化や産業、生活環境などの変化、都市機能の老朽化を迅速に捉え、都市の活力を創出する都市機能の再構築により、自律する都市の質の高い都市拠点空間の形成が必要となります。

さらに、少子高齢化社会を見据え、これまで形成されてきた市街地の地域構造を維持、継承し、有効活用する中で、成熟社会にふさわしい、質の高いまちづくりを進める必要があります。

そのためには、国、県との役割分担や、近隣都市との都市連携を通じて、広域的課題を解決するとともに、新しい公共の視点に立った産業や生活基盤を支える都市構造の再構築をめざします。

**<各部門の政策案>**

- ・ 用途地域の見直しや、高度地区の指定等、都市計画制度を活用することにより、少子高齢社会や環境問題に対応する都市づくりに向けて、中心市街地の活性化や産業の活性化、さらには住環境の整備を図る。
- ・ 新たな公共交通（LRT 等）の導入を図るとともに、既存バス交通や地域提案型のコミュニティバス路線の充実、さらには自転車交通の利用の促進を図り、公共交通の利用を促進し、車社会からの転換を図る。
- ・ 土地区画整理の手法を活用し、（組合など多様な施行主体による事業を推進し、）整理された安全、安心な災害に強い快適なまちを創出する。
- ・ 広域連携や都市活動を支える交通基盤を構築し、効率的な都市活動を推進する。

ふじさわ未来課題 63 地域の人材が働ける機会を創造すること

(関連未来課題 57)

戦略目標 20 地域の人材を活かした雇用機会を創出するまち

日本社会は、経済活動のグローバル化と産業構造の変化に伴い、戦後維持してきた雇用制度や社会保障制度が大きく変革しつつあります。

その結果、企業はパート、派遣などの正規従業員以外の雇用者を活用し、正規従業員の賃金制度を業績・成果主義的方向に見直しつつ、経営環境を維持しようとする傾向が生じています。

一方、藤沢市内でも産業構造の空洞化によって市民の働く場所が減少し、市民から安定した雇用や働く場所を求めるニーズが高まっています。

そのためには、国・県、近隣市町及び民間事業者等との連携により、若年層を中心とした就職困難者、女性の社会への再進出、働く意欲のある団塊世代の再雇用、高齢者の生きがいに通じる働く場の提供など、社会的・経済的自立の推進を図るため、地域の人材を活かした様々な雇用の機会を創出するまちづくりを進めます。

<各部門の政策案>

- ・ 近隣市町、国・県及び民間事業者等との連携により、就職困難者の社会的・経済的自立の推進を図る。

## 8 公共資産の維持管理と有効活用

公有地などの公共的な保有資産の積極的な活用とともに、公共施設の集約・移転等により生じる跡地、施設の有効活用、地域ニーズに合った資産を活用します。そのためには、公共施設・都市基盤施設の老朽化の時期を見据えて、既存施設の保全、再構築、機能更新など、社会資本の有効活用と長寿命化をめざします。

<行政政策の棚卸内容>

- ・ 公共資産の再構築と有効活用を図ること。
- ・ 近隣市町と連携して、効果的、有効的に公共資産（消防力）が活用されること
- ・ 地域における主体的な市民活動を支える。
- ・ 既存施設の機能更新による維持
- ・ 市民がいつでも安心して医療の提供を受けられること。
- ・ 地域医療支援病院として、安心して受診できる医療提供体制を整備すること。
- ・ 学校施設の有効活用について検討するとともに、老朽化した学校施設について、環境対策を含めた質的改善並びに老朽化対策等の整備計画を策定し、定期に見直し改善を図ること。

### ふじさわ未来課題 67\_移動や利用にあたり、誰でも利用できる道路や施設であること

#### 戦略目標 21\_誰にでも優しいユニバーサルデザインのまち

少子高齢化社会を迎え、誰もが安全・安心して移動できる都市空間の形成が、いま求められています。

子どもから高齢者まで、誰もが社会参画し、身近な地域の中でまちを散策し、様々なサービスを楽しみ、人との交流を深め、情報を発信していくために、生活拠点を中心とした移動空間の質的向上を図ります。

また、地区と地区、都市と都市との移動を円滑にしていくためのアクセス機能や公共交通機関の機能強化など、市民、ボランティア団体、NPO、企業と行政などが協働・連携して、誰にでも優しいユニバーサルデザインのまちづくりを進めます。

<各部門の政策案>

- ・ 藤沢北口駅前地区整備事業の進捗を図るとともに藤沢駅周辺地区（約145ha）を対象とした再整備構想の策定に向けた検討を進め、都市拠点としての活力創出を図る。
- ・ だれもが暮らしやすい都市空間を形成し、ユニバーサル社会の構築を進める。

### ふじさわ未来課題 69\_市民が利用する身近な施設が大切にされていること

（関連未来課題 70）

#### 戦略目標 22\_未来に引き継ぐ公有財産と社会資本を有効活用するまち

藤沢市には、約 78 万㎡の公共施設のうち約 52%の約 41 万㎡が、今後 20 年以内に機能更新、再構築が必要となります。

また、都市のライフラインである公共下水道は約 1,500 km で、今後 20 年間で整備後 50 年以上経過するものが約 44%に達し、橋梁は 189 橋のうち、築 30 年以上経過した橋梁は 111 橋にも達します。

更に、藤沢市が整備した都市計画道路、一般市道をあわせて 1,354 km になり、今後逐次道路機能の機能更新を進めていく必要があるなど、社会資本の老朽化、陳腐化は藤沢市の財政構造を直撃する喫緊の課題となっています。

課題解決のためには、公共資産の有効活用と公民連携の視点に立って、公共施設等の利用実態や老朽化、機能更新の時期を踏まえ、長寿命化対策や計画的な公共施設などの再構築、広域連携などを進めていく必要があります。

また、地域のコミュニティ施設については、市民・地域と行政が協働・連携し、地域の公共資産の有効活用の視点に立って、地域施設の再構築を進めていく必要があります。

#### <各部門の政策案>

- ・ 高齢化社会突入に伴う人口動向を見据えた計画的な施設経営とともに、災害・緊急時における市域を越えた協力体制の構築を図る。
- ・ 都市基盤施設（道路・河川・下水道施設等）の長寿命化対策の推進により、社会資本の維持、継承を図る。

### ふじさわ未来課題 71\_多様な連携を通じて、市民が望むサービスが提供されていること

（関連未来課題 66, 67, 68, 72）

### 戦略目標 23\_多様な主体が広域連携するまち

多様化する市民ニーズへの対応や一自治体では解決が困難な問題に対して、近隣市町との様々な広域的連携により共通する都市課題を解決するため、広域連携によるスケールメリットと地域の特性を活かし、サービスの共同運営、防災、消防、救急、交通ネットワークや地域経済の活性化などを推進します。

また、市民、市民ボランティア、NPO、大学、企業など、市域を越えた活動主体間の協働・連携によって、情報、生活支援、研究開発、サービス向上などの機能強化を推進するとともに、行政は多様な主体による多様な都市活動の支援のしくみづくりを進めます。

#### <各部門の政策案>

- ・ 近隣市町との様々な広域的連携により、サービスの質的向上と多様性の推進を図る。

## 9 「藤沢ライフスタイル」と「湘南カルチャー」の創出

湘南の環境と文化，ブランド力などの地域の特性を活かした，魅力的な生活（「藤沢ライフスタイル」）や創造的な湘南の文化（「湘南カルチャー」）の創出をめざし，その魅力と価値を発信します。そして，市民一人ひとりが豊かな心を育み，地域と世界をつなぐ国際交流などを通じて人材を育て，文化にふれあう交流発信のまちをつくりあげingことをめざします。

<行政政策の棚卸内容>

- ・ 文化にふれあう交流発信のまち
- ・ 藤沢市民まつりを通して，湘南藤沢の伝統文化の魅力を伝える。
- ・ 文化資源を「はぐくむ」，「つたえる」，「ひろげる」，「ささえる」ものであること。

### ふじさわ未来課題 76 訪れる人・住む人に配慮した心遣いや工夫があること

（関連未来課題 73, 74, 80）

### 戦略目標 24 地域の伝統や文化を継承，多様なライフスタイルが生まれるまち

藤沢市内には、地域に根ざした歴史にもとづく祭り、風習などの伝統文化や歴史的建造物、史跡、名勝などの地域資源がいきづいています。

これらの歴史、伝統、文化についての関心と理解を深め、継承、発展させることが藤沢らしさを次世代につなげていくこととなります。

市民の多様なニーズとライフスタイルの変化を捉え、地域の歴史文化遺産の保存、継承、発展をさせていくために、市民と地域が協働・連携し、培ってきた地域文化と様々な創造活動を通じ、多様なライフスタイルが生まれるまちを創出していきます。

<各部門の政策案>

- ・ 市民が地域の歴史・伝統についての理解を深める機会を提供するため，文化財の保護及び収集資料公開活用の充実を図るとともに，地域の文化遺産の保存・継承活動の拠点となる施設を整備する。

ふじさわ未来課題 81\_地域の記憶や文化が継承され、発展すること

(関連未来課題 83)

戦略目標 25\_市民一人ひとりが豊かな心を育む文化に触れ合う交流発信のまち

藤沢では、江の島、湘南海岸などにおいて、大正、昭和初期に様々な文学、絵画を中心とした芸術文化が花開きました

昭和50年代には、市民力、地域力を活かした市民オペラが生まれ、地域の歴史を素材にした「龍恋譜」を上演するなど、藤沢独自の芸術文化活動が行われてきました。

また、地域では、地域固有の歴史と文化が生まれ、地域の個性ときらめきが今の時代に脈々と受け継がれています。

都市は、就業の場、学ぶ場、消費する場、居住の場としての機能が中心となっていますが、そこに市民が集い、交流し、藤沢が培ってきた文化、芸術や娯楽、スポーツなどを加え、それらが渾然一体となって新たな都市の魅力を創出し、人をひきつけ、活発な交流を図るため、クリエイティブシティ（文化芸術創造都市）の創出をめざしていきます。

<各部門の政策案>

- ・ 高いレベルの市民の芸術文化活動をより一層発展させ、藤沢市独自の市民力を活かした事業展開と施設整備を行い、芸術文化活動環境の発展を図る。



ふじさわ未来課題マトリックス

めざす方向性		(1) 地域自律型の「藤沢づくり」を育むまち	(2) 明日の藤沢を担う「藤沢の子どもたち」を育む環境	(3) 市民力・地域力による安全で安心して暮らせるまち	(4) 共に生き、共に創る地域社会の創出	(5) 豊かな地域資源の次世代への継承・発展	(6) 地球温暖化防止など未来の地球環境への投資	(7) 「藤沢づくり」を支える都市構造の再構築と地域経済の活力再生	(8) 公共資産の維持管理と有効活用	(9) 「藤沢ライフスタイル」と「湘南カルチャー」の創出
生活	(A) 市民生活の安定(安定・落ち着き・安らぎ)	1 身近な地域での暮らしやすさが実現していること	8 市民自ら、人にやさしい手をさしのべること	17 保健、医療、福祉、健康などの生活環境が整い暮らしやすいこと	24 挨拶や声かけによる市民同士のコミュニケーションがとれていること	35 まちと自然環境の調和がとれていること	46 生活の便利さと環境保全の両方が実現していること	56 身近に親しみや愛着のもてる景観があること	66 市民の財産である自然を守り、育てられていること	73 活気があり、開放的で温かいまちであること
	(B) 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)	2 市民が自慢できるまちであること 3 市民自らが藤沢を良くする活動に積極的であること	9 子どもを安心して育てられる環境があること	19 治安の良い環境であること	26 子育て世代を支える環境が充実していること 27 お互いの個性が尊重されていること	36 誰もが快適に暮らせ、居心地のいいまちであること 37 市民、地域、行政が協力し、快適な生活が実現していること 38 イベントや物産品などの地域ブランドが定着していること	47 みんなが協力して、いつでもまちがきれいであること 48 豊かな緑に囲まれた生活が出来ていること 49 人々の環境への意識が高く、快適なまちであること	57 すべての世代がのびのび・いきいきと活躍していること 58 地域の特徴が活かされたまちであること 59 安全で安心な食べ物が身近で得られること	67 移動や利用にあたり、誰でも利用できる道路や施設であること	74 いつも自然の豊かさを感じられていること 75 豊かな地域資源を宝に、楽しい体験ができるまちであること 76 訪れる人・住む人に配慮した心遣いや工夫があること
活動	(C) 持続的活動(伝える・維持する)	4 藤沢市で活用できる様々な資源を有効活用していること	10 子どもが、住んでいる地域に誇りを持ち、地域で暮らし続けていること 11 地域の歴史文化を教育活動に活用すること	20 安全・安心を高める活動が盛んであり、ボランティアの精神が高いこと	28 地域のための一人ひとりの活動が大切にされていること	39 身近にある緑が適切に保全されていること 40 地域にある様々な地域資源が活かされていること	50 市民の環境美化への意識を高める工夫がされていること	60 まちに若者が多く、活気があること 61 観光により地域が元気になること	69 市民が利用する身近な施設が大切にされていること	77 藤沢の魅力がメディアで発信されていること 78 常により良い地域にしようと住民が活躍していること
	(D) 創造・推進活動(発展・チャレンジ)	5 地域で協働して、暮らしやすいまちづくり活動が行われていること	12 地域協働で、教育や人材育成に熱心であること	21 市民が協力しあい、安心して住みやすいまちであること	29 いろいろな世代、いろいろな国の人たちと交流できること 30 お互いにマナーを守り、協力して地域のために活動していること	41 調和のとれた景観づくりが進められていること	51 先進的な環境対策がなされていること	62 産業の活力を高め、地域が元気になること 63 地域の人材が働ける機会を創造すること	70 様々な主体によって、身近な公共の場が維持管理されていること	79 市民の意識が高く、市民参加型の地域づくりが進んでいること
基盤	(E) 交流基盤(交流・つながり・連携)	6 誰でも気軽に市内の情報を発信したり、得ることができること	13 地域が子どもを見守り育てる環境であること 14 学校・家庭・地域のつながりを育む活動が活発であること	22 様々な世代が、快適で住みよいまちであること	31 社会的弱者の方が快適に過ごせるまちであること 32 人々が交流して、平和でぬくもりのある社会であること	42 市民同士が協力し合いながら暮らしていること 43 子供が大人になっても愛着の持てるまちであること	52 周辺自治体や他地域と共に環境対策を進めていること 53 市民・地域が協力して持続可能な環境ができていくこと	64 商店街と大型店舗が共存共栄し、活気あるまちになること	71 多様な連携を通じて、市民が望むサービスが提供されていること	80 市民と来訪者が交流できる機会や場があること 81 地域の記憶や文化が継承され、発展すること
	(F) 市民生活の基礎(学ぶ・育む・人材育成・仕組みづくり)	7 お互いがマナーを守り、助け合いの心で過ごせるまちであること	15 子どもたちが積極的に交流できる場が整備されていること 16 子どもたちが身近な生活の中で自然を感じていられること	23 福祉が充実し、子どもから高齢者まで守られていること	33 地域の中で学びあう雰囲気があること 34 地域で支え合い暮らせる環境であること	44 河川や海岸が市民に開かれていること 45 地域の未来の担い手が育成されていること	54 地球環境に優しい手段で移動できること 55 環境美化活動を支える仕組みがあること	65 市内の交通・物流がスムーズに行われること	72 いろいろな市民の学びの場が充実していること	82 藤沢ならではの取り組みが実践されていること 83 子どもから大人まで、文化に触れる環境が整っていること

①協働型の課題解決で価値向上へ  
重点・ふじさわ未来課

②強みや魅力の維持・向上を

③より効率的に価値の維持を

④熟慮と根拠ある未来戦略を

都市ビジョン

「藤沢づくり」のめざす方向性

- 都市ビジョン1  
市民生活の力が育てる  
生活充実都市

2 明日の藤沢を担う「藤沢のこどもたち」を  
育む環境

ふじさわ未来課題

8. 市民自ら、人にやさしい手をさしのべる  
こと

戦略目標

戦略目標3 子どもを安心して産み育てられるまち

コメント: 少子化の進展は、労働人口の減少や経済の停滞等を生じ、地域構造のバランスを崩し、藤沢全体に様々な影響を及ぼします。  
明日の藤沢づくりの担い手は、子どもたちです。  
子どもを安心して産み育てられるまちにしていくためには、子育ての不安を解消し、安心して子どもを産み、育てられる生活環境や多様な教育ニーズへの対応が求められています。  
そのためには、市民・地域と行政が協働・連携して、明日の藤沢を担う子どもたちが元気に育つ環境、子育て支援のしくみ、教育環境などを形成することによって、子や孫やこれから生まれてくる子どもたちのための藤沢づくりを進めます。

成果指標: 安心して出産・子育てができると感じる割合

現状値: %      めざそう値: %

14. 学校・家庭・地域のつながりを育む活  
動が活発であること

戦略目標4 身近な場所で地域ぐるみの子育てができるまち

コメント: 核家族化の進展、一人っ子世帯の増加、働きながら子育てをする家庭の増大など、子育てをする家庭環境は大きく変貌しています。  
また、高齢化社会の到来によって、地域にはたくさんの子育ての経験豊かな市民も多くいます。  
明日を担う子どもたちは、藤沢の財産です。  
このような地域社会の状況変化を踏まえ、子育ては家庭はもとより、地域や学校、多くの市民や地域を支える自治会・町内会、ボランティア、NPO、教育機関、企業などと行政が連携・協働して、子どもたちを地域ぐるみで育て、教え、見守る子育て支援のしくみづくりが求められています。  
また、青少年育成のためには、市民力・地域力・教育力を活かして、青少年の健全育成のための環境づくりを進めていきます。

成果指標: 地域が子育てに積極的に関わっていると感じている市民の割合

現状値: %      めざそう値: %

政策(検討中)

親子の健康の確保と増進

活動指標: 安心して出産・子育てができると感じる割合

現状値: %      めざそう値: %

役割期待値:

援助が必要な児童への取り組みの推進

活動指標: 相談しやすい環境が整っていると感じている市民の割合

現状値: %      めざそう値: %

役割期待値:

すべての子育て家庭への支援の充実

活動指標: 保育所定員及び特別保育等実施園数

現状値: %      めざそう値: %

役割期待値:

生きる力を育む学校教育の推進

活動指標: 保護者等が、学校教育が充実していると評価している割合

現状値: %      めざそう値: %

役割期待値:

誰でも楽しく学べる学校教育環境の整備

活動指標: 小・中・特別支援学校の整備について満足と感じている市民の割合

現状値: %      めざそう値: %

役割期待値:

青少年の豊かな心を育む環境の整備

活動指標: 青少年の育成の場や機会が充実していると感じている市民の割合

現状値: %      めざそう値: %

役割期待値:

都市ビジョン

「藤沢づくり」のめざす方向性

- 都市ビジョン1  
市民生活の力が育てる  
生活充実都市

3 地域力・市民力による安全で安心して暮らせるまち

ふじさわ未来課題

18. 災害に対して、市民が不安なく暮らせるまちであること

戦略目標

戦略目標5 災害や犯罪に対して不安なく暮らせるまち

コメント:コミュニティを維持発展させ、市民が安全・安心に暮らせる藤沢づくりは重要な課題です。  
地球環境や自然環境の変化によって、地震、津波、風水害などの災害や都市構造の変化、高齢化社会の到来などにより、様々な災害の要因が生まれています。  
また、核家族化、高齢者世帯や共働き世帯の増加、都市環境・都市活動の変化などが要因となって、様々な犯罪も発生しています。  
更に、自動車社会の進展により、多様な交通事故や交通問題が惹起しています。  
身近なコミュニティにおいても、人と車、自転車が共存する安全・安心な環境が求められています。  
そのためには、市民・地域と行政が協働・連携して築き上げてきた防災力を活かして、災害に対しての備えや被災したときの体制、緊急支援活動の充実によって、生活の不安を解消し、日常生活においても安全・安心な体制づくりをめざします。  
加えて藤沢の持つ消防力、救急力を活かし、かつ近隣の市町との消防広域連携によって火災予防、火災対応を充実させ、機能強化を図ります。  
また、事故や犯罪についても、市民・地域と行政が協働・連携して、築き上げてきた安全・安心のしぐみを活かして、更なる地域ぐるみでの安全・安心な環境づくりをめざします

成果指標:災害や犯罪に対して不安をいただいている市民の割合

現状値: % | めざそう値: %

政策(検討中)

地域防災力の強化を図る
活動指標:自主防災組織の訓練実施率
現状値: %   めざそう値: %
役割期待値:
安全で安心できる消費生活の推進
活動指標:消費生活に不安を感じていない市民の割合
現状値: %   めざそう値: %
役割期待値:
防犯対策の強化
活動指標:市内の刑法犯認知件数
現状値: %   めざそう値: %
役割期待値:
災害に強いまちづくりの推進
活動指標:耐震性を有する住宅の割合
現状値: %   めざそう値: %
役割期待値:
安全・安心な都市基盤・都市環境づくりの推進
活動指標:浸水対策実施地区数
現状値: %   めざそう値: %
役割期待値:
消防防災体制の充実強化
活動指標:防災・消防に対して安心感を感じている市民の割合
現状値: %   めざそう値: %
役割期待値:
市民の自主的災害活動の強化
活動指標:市民が自主防災に備える意識の必要性を感じている割合
現状値: %   めざそう値: %
役割期待値:

都市ビジョン

「藤沢づくり」のめざす方向性

- 都市ビジョン1  
市民生活の力が育てる  
生活充実都市

3 地域力・市民力による安全で安心して暮らせるまち

ふじさわ未来課題

23. 福祉が充実し、子どもから高齢者まで守られていること

戦略目標

戦略目標6 保健・医療・福祉・健康などの生活環境が整ったまち  
 コメント:すべての人が生涯を通じ、いつまでも住み慣れた地域で、からだも心も元気で、いきいきと暮らし続けることは、私たちの願いです。  
 この願いを実現するため、市民・地域と行政が協働し、病気の予防や心も健やかであるための健康づくりを進める必要があります。  
 市民は、生涯を通じた健康を自らつくり、家庭ではぐくむとともに、地域では、人と人とのつながりや地域の活力をいかして、互いに健康を支え合うことが大切です。  
 行政は、市民・地域の健康を支えるために、保健・医療(介護)・福祉・健康・食育・スポーツ・安全・安心な環境づくりを推進していきます。  
 また、少子高齢化社会の到来を踏まえ、皆が明るく豊かで生きがいを持って、生き生きとした生活を送ることができるよう、生活者の実感を大切にしながら、市民・地域と行政が協働・連携して、保健・医療(介護)・福祉・健康などの新たなセーフティネットの構築も進めていく必要があります。  
 成果指標:保健・医療・福祉・健康が充実していると感じている市民の割合  
 現状値: %      めざそう値: %

政策(検討中)

- 障がいのある人への支援の充実  
 活動指標:障がいのある人に適切な支援がなされていると感じている市民の割合  
 現状値: %      めざそう値: %  
 役割期待値:
- ゆとりある高齢期を明るく心豊かに暮らせるまちの創造  
 活動指標:高齢者保健福祉計画に基づく老人福祉施設整備目標  
 現状値: %      めざそう値: %  
 役割期待値:
- 生涯にわたる健康づくりの推進と健康危機管理体制の充実  
 活動指標:健康などの生活環境が整い暮らしやすいと思う人の割合  
 現状値: %      めざそう値: %  
 役割期待値:
- 医療体制の充実、整備の推進  
 活動指標:産科分娩件数  
 現状値: %      めざそう値: %  
 役割期待値:
- 安全・安心な住宅セーフティネットの充実  
 活動指標:社会的弱者が快適な環境で過ごしていると感じている割合(指定管理者アンケート結果より)  
 現状値: %      めざそう値: %  
 役割期待値:
- 湘南藤沢の地域特性を活かした生涯スポーツ活動の推進  
 活動指標:気軽に利用できるスポーツ施設が充実していると感じている市民の割合  
 現状値: %      めざそう値: %  
 役割期待値:

都市ビジョン

- 都市ビジョン2  
地域から地球に拡がる  
環境行動都市

「藤沢づくり」のめざす方向性

4 共に生き、共に創る地域社会の創出

ふじさわ未来課題

24. 挨拶や声かけによる市民同士のコミュニケーションがとれていること

戦略目標

**戦略目標7 一人ひとりの個性を尊重し認め合う、心の通うまち**

コメント:国際化や価値観の多様化、ひとり暮らし世帯の増加と核家族化の進展の中で、市民一人ひとりの個性と人権が尊重され、認め合うことで、心豊かな社会や生活環境の価値向上が求められています。  
家庭内暴力やいじめ、差別、セクシャルハラスメントなどがなく、ワークライフバランスや男女共同参画社会などの実現を図るためには、性別、世代、格差、国籍、ハンディキャップなどを超えて、互いに尊重し、共に生き、共に創る地域社会を創出していく必要があります。  
そのためには、市民・地域と行政が協働・連携して、一人ひとりの個性を尊重し、人権を認め合い、多文化が共生し、男女共同参画をめざした藤沢づくりを進めます。

成果指標:個性が尊重されていると感じている市民の割合

現状値: %	めざそう値: %
--------	----------

政策(検討中)

**人権社会の推進**

活動指標:性別、年齢、社会的地位、所得、国籍、ハンディキャップなどを意識させない社会であると感じている市民の割合

現状値: %	めざそう値: %
--------	----------

役割期待値:

32. 人々が交流して、平和でぬくもりのある社会であること

**戦略目標8 人々が交流して、平和でぬくもりのあるまち**

コメント:平和な社会は、藤沢市民の願いです。  
藤沢市は、「藤沢市核兵器廃絶平和都市宣言」や「藤沢市平和基金条例」「藤沢市核兵器廃絶平和推進の基本に関する条例」を制定し、市民・地域と行政が協働・連携して、恒久平和をめざして、様々な平和運動を推進してきました。  
また、航空機騒音などに対する諸問題解決に向けて、様々な活動も進めてきました。  
これまで蓄積してきた平和などに対する思いをさらに深化させていく必要があります。  
一方、藤沢は様々な海外都市との交流をはじめ、都市間交流も活発に行われてきました。  
藤沢に生きた人々の歴史とそこから生まれた文化を探求し、継承するとともに、多文化が織りなす交流を通じて情報を共有し、地域ぐるみでの交流活動をさらに発展させ、新しい文化交流へとつなげていくことが求められています。  
市民・地域と行政が協働・連携して、都市間交流を活発化させ、海外都市、外国籍市民との交流によって、多文化が共生し、平和で穏やかな地域社会を創り出す藤沢づくりを進めます。

成果指標:生活の中で平和な社会を実感している市民の割合

現状値: %	めざそう値: %
--------	----------

**多様な担い手との協働による国際交流の推進**

活動指標:外国籍市民との交流を身近に感じている市民の割合

現状値: %	めざそう値: %
--------	----------

役割期待値:

34. 地域で支え合い暮らせる環境であること

**戦略目標9 地域で支え合う共生するまち**

コメント:地域分権を通じて、地域で支えあう共生するまちを実現していくためには、藤沢の市民自治の歴史と蓄積を活かし、市民・地域が協働・連携して、地域コミュニティを豊かにしていく市民主体のまちづくりを進めていくことが重要です。  
そのためには、市民一人ひとりの支えあい、自治会・町内会など身近な地域での支えあい、ボランティア団体、NPO、大学、企業などによる社会貢献活動が相互に連携・補完する、個性豊かで地域が生き生きとした、生涯を通じて一人ひとりが生きがいを持って暮らすことができる藤沢づくりを進めます。  
また、行政は、地域で支えあい共生するまちを実現するために、地域に根ざした市民ボランティアやNPOなどを育成し活動を支援するための様々なしくみを構築します。

成果指標:地域に支えられて暮らしていると実感している市民の割合

現状値: %	めざそう値: %
--------	----------

**地域で支えあうためのネットワークづくりの推進**

活動指標:ボランティアセンターへの登録者数

現状値: %	めざそう値: %
--------	----------

役割期待値:

**多様な主体による生涯学習の推進とネットワークの構築**

活動指標:気軽に利用できる学習施設の充実について満足と感じている市民の割合

現状値: %	めざそう値: %
--------	----------

役割期待値:

都市ビジョン

「藤沢づくり」のめざす方向性

■ 都市ビジョン2  
地域から地球に拡がる  
環境行動都市

5 豊かな地域資源の次世代への継承・発展

ふじさわ未来課題

37. 市民、地域、行政が協力し、快適な生活が実現していること

45. 地域の未来の担い手が育成されていること

戦略目標

戦略目標10 豊かな自然環境と地域資源を守り発展させ、次世代に継承するまち  
 コメント： 藤沢には、湘南海岸や引地川、境川の水辺環境、川名緑地をはじめとした里山がいまに残る三大緑地などの自然環境、北部を中心とした自然豊かな田園環境、また地域の歴史や文化に育まれた次世代に継承する大切な地域資源があります。  
 これらの地域資源は、長い年月を経て先人たちが創り、育て、守ってきた、貴重な市民共有の財産です。  
 これらの地域資源を保全、再生、発展、継承することにより、湘南の自然環境と歴史文化がいきづく、将来にわたって住み続けたい、藤沢に住みたい、藤沢で活動したいと感じられる藤沢づくりを進めます。  
 成果指標：自然環境が豊かだと感じている市民の割合  
 現状値： %                      めざそう値： %

戦略目標11 愛着と誇りの持てる景観の保全と創造するまち  
 コメント： 藤沢の自然、歴史、文化の蓄積と市民との協働によるまちづくりの進展、都市魅力の発信によって、湘南藤沢のイメージが培われてきました。  
 その反面、地域の個性や愛着、アイデンティティが見えにくい側面も生まれています。  
 愛着と誇りの持てる景観の保全と創造のまちを実現していくためには、都市全体を印象付ける自然環境や都市環境を保全、形成していくとともに、ブランド力により磨きをかけ、かつ身近な地域での愛着と誇りを感じる地域景観の保全、形成を進めていく必要があります。  
 藤沢で培ってきた景観づくりや自然環境の保全、形成のしくみや蓄積をさらに深化させ、様々な人々を湘南藤沢に惹きつけていく魅力を高めるために、市民・地域と行政が協働・連携して、景観の保全と創造による藤沢づくりを進めます。  
 成果指標：まちの景観が好きだと思っている市民の割合  
 現状値： %                      めざそう値： %

戦略目標12 地域の担い手が育つまち  
 コメント： 藤沢には、市民力、地域力が満ち溢れています。  
 この藤沢の大切な「力」を活かして、次世代の藤沢づくりの担い手を生み、育て、引き継いでいくひとづくりが、いま求められています。  
 未来の担い手が育つまちを実現していくためには、様々な人生を経験してきた市民の経験力、地域の文化を継承、発展させてきた地域の継承力、ボランティア、NPO活動によって培われてきた地域貢献力、大学、企業などが地域と協働する社会貢献力、これらを支える行政力などが必要です。  
 このような「力」が協働・連携し、子どもたちやすべての世代が、未来のまちの担い手として活躍できる活動を推進します。  
 成果指標：藤沢の未来を担っていく担い手が着実に育っていると感じている市民の割合  
 現状値： %                      めざそう値： %

政策（検討中）

谷戸や緑地など自然環境の保全  
 活動指標：緑地の保全及び動植物にとって良好な生息・生育環境が保全されていると感じている市民の割合  
 現状値： %                      めざそう値： %  
 役割期待値：

地域の特性を生かした市民主体の景観まちづくりの推進  
 活動指標：市民満足度調査による平均値を上回る地区の割合  
 現状値： %                      めざそう値： %  
 役割期待値：

次世代の「藤沢づくり」を担う担い手の育成  
 活動指標：地域活動に参加する市民の数  
 現状値： %                      めざそう値： %  
 役割期待値：



都市ビジョン

- 都市ビジョン3  
さらなる可能性を追求する創造発信都市

「藤沢づくり」のめざす方向性

7 「藤沢「づくり」を支える都市構造の再構築と地域経済の活力再生

ふじさわ未来課題

61. 観光により地域が元気になること

戦略目標16 多様な地域資源を活かした観光立市のまち

コメント：藤沢は江戸の昔から「江ノ島詣」を通じて、江戸庶民の観光地として栄え、戦前戦後を通じて、歴史と文化の江の島、海洋レクリエーション拠点の湘南海岸を中心に首都圏の身近な観光拠点として、年間1,000万人を超える観光客が訪れる観光地として発展してきました。  
近年の国民の観光・レジャーに対する多様なニーズの変化や、東南アジアを中心とした外国人観光客の増加などを踏まえ、観光立市としての新たな観光戦略が求められています。

そのためには、藤沢の自然、歴史、文化と今まで培われてきた交流文化、湘南ブランドを活用し、市民が身近なまちの地域資源や素晴らしさに触れ、余暇時間の活用や生涯学習などを通じて、市内観光の魅力を再発掘、再発見することが必要です。

また、湘南ブランドの魅力を高め、多様な地域資源と市民のおもてなし文化を通じ、南北縦断観光機能の強化によって、海外、国内からの観光誘客を図り、あわせて誘客観光産業を育成し、多様な地域資源を活かした観光立市のまちづくりを進めます。

成果指標：観光によって地域の活性化が進んでいると感じている市民の割合

現状値： %	めざそう値： %
--------	----------

新たな観光資源の開発と外国人誘客による、地域活性化の推進

活動指標：1年間の観光客数(海水浴客数を除く)の増加割合

現状値： %	めざそう値： %
--------	----------

役割期待値：

62. 産業の活力を高め、地域が元気になること

戦略目標17 新しい産業の興る活力あるまち

コメント：藤沢は、戦前戦後を通じて東海道沿線や北部地域を中心に、製造業を中心とした産業が立地し、日本でも有数の工業都市として発展してきました。

しかし、経済活動のグローバル化、産業構造の変化は、藤沢の製造業を中心とした産業構造にも大きな変化を与え、産業の空洞化による製造品出荷額の減少、雇用の減少による市民の働く場の喪失が生じています。

この問題を解決するためには、藤沢の持つ都市インフラなどの強みと、大学力、企業力、市民力を活かし、また今まで培ってきた多彩な人材、知財資源を活用して、ベンチャー企業、ソーシャルビジネスの育成や研究開発機関の誘致、新たな産業の創出による創業、起業、経営革新を促進し、地域経済の活性化をはかり活力ある藤沢づくりを進めます。

成果指標：市内企業が活発だと感じている市民の割合

現状値： %	めざそう値： %
--------	----------

ベンチャー企業や中小企業の新事業進出による新産業の創出の推進

活動指標：ベンチャー企業の事業化数

現状値： %	めざそう値： %
--------	----------

役割期待値：

快適な市民生活をもたらす道路交通ネットワークの構築

活動指標：広域道路網の整備率

現状値： %	めざそう値： %
--------	----------

役割期待値：

戦略目標18 市民生活を支える産業の活力を高めるまち

コメント：藤沢は、農業、水産業、商業、工業の4つの機能を有した、バランスのとれた産業活動の溢れるまちです。

しかし、農水産業の担い手不足、都市農業における耕作放棄地への対応、沿岸漁業における流通販路の確保などの課題が生じています。

また、少子高齢化社会や近隣都市の商業機能の集積、商業機能の郊外出店などによって、藤沢の商業環境は大変厳しい状況にあり、大型店や地域コミュニティの場など一体となった生活者の視点に立った商業機能の再構築が必要とされています。

そのためには、市内産の安全・安心な農水産物の安定供給と地産地消にむけた流通システムの再構築を図ることにより、生産者と消費者を結ぶしくみづくりを生産者、流通業者、消費者と行政が協働・連携して進めていきます。

また、地域の特性や市民ニーズを踏まえ、地域資源などを活用し、大型店と商店街が共存できる、地域に密着した活気ある商業環境の構築を進めていきます。

成果指標：市内の商業・工業・農水産業に元気があると感じている市民の割合

現状値： %	めざそう値： %
--------	----------

コミュニティの核として地域に密着した「商店街」づくりの推進

活動指標：日常生活において身近な生活街としての商店街を利用する人の割合

現状値： %	めざそう値： %
--------	----------

役割期待値：

研究開発型の産業集積と中小企業の活性化の推進

活動指標：研究開発型企業の市内企業に占める割合

現状値： %	めざそう値： %
--------	----------

役割期待値：

地産地消の推進による市内農水産業の活性化

活動指標：安全・安心な市内産の農水産物が身近で手に入ると感じる人の割合

現状値： %	めざそう値： %
--------	----------

役割期待値：

都市ビジョン

- 都市ビジョン3  
さらなる可能性を追求する創造発信都市

「藤沢づくり」のめざす方向性

7 「藤沢「づくり」を支える都市構造の再構築と地域経済の活力再生

ふじさわ未来課題

63. 地域の人材が働ける機会を創造すること

戦略目標

戦略目標19 産業や生活基盤を支える、都市構造を構築するまち

コメント: 都市内外にわたる産業活動や市民の生活活動などを支え、多様な交流、連携の創出に向け都市拠点間を結び、活力を創造する交通骨格のネットワークの再構築が求められています。  
また、都市拠点では、社会潮流の変化や産業、生活環境などの変化、都市機能の老朽化を迅速に捉え、都市の活力を創出する都市機能の再構築により、自律する都市の質の高い都市拠点空間の形成が必要となります。  
さらに、少子高齢化社会を見据え、これまで形成されてきた市街地の地域構造を維持、継承し、有効活用する中で、成熟社会にふさわしい、質の高いまちづくりを進める必要があります。  
そのためには、国、県との役割分担や、近隣都市との都市連携を通じて、広域的課題を解決するとともに、新しい公共の視点に立った産業や生活基盤を支える都市構造の再構築をめざします。

成果指標: 交通などの都市基盤が充実していると感じている市民の割合  
現状値: %      めざそう値: %

戦略目標20 地域の人材を活かした雇用機会を創出するまち

コメント: 日本社会は、経済活動のグローバル化と産業構造の変化に伴い、戦後維持してきた雇用制度や社会保障制度が大きく変革しつつあります。  
その結果、企業はパート、派遣などの正規従業員以外の雇用者を活用し、正規従業員の賃金制度を業績・成果主義的方向に見直しつつ、経営環境を維持しようとする傾向が生じています。  
一方、藤沢市内でも産業構造の空洞化によって市民の働く場所が減少し、市民から安定した雇用や働く場所を求めるニーズが高まっています。  
そのためには、国・県、近隣市町及び民間事業者等との連携により、若年層を中心とした就職困難者、女性の社会への再進出、働く意欲のある団塊世代の再雇用、高齢者の生きがいに通じる働く場の提供など、社会的・経済的自立の推進を図るため、地域の人材を活かした様々な雇用の機会を創出するまちづくりを進めます。  
成果指標: 市内で働く機会が得ることができると考えている市民の割合  
現状値: %      めざそう値: %

政策(検討中)

都市計画制度による住環境整備や産業の活性化	
活動指標: 産業と住環境のバランスが良いと感じている市民の割合	
現状値: %	めざそう値: %
役割期待値:	

  

交通ネットワークの充実による交通体系の充実	
活動指標: 交通ネットワークの整備により利便性を感じている市民の割合	
現状値: %	めざそう値: %
役割期待値:	

  

きちんと整理された安全で快適なまちづくりの推進	
活動指標: 土地区画整理事業による整備面積の拡大	
現状値: %	めざそう値: %
役割期待値:	

  

都市形成に資する交通体系の構築	
活動指標: 都市計画道路の整備率	
現状値: %	めざそう値: %
役割期待値:	

  

若年者を中心とした就労支援事業の推進	
活動指標: 「Let'sしごと塾」カウンセリング利用者の進路先が決定する割合	
現状値: %	めざそう値: %
役割期待値:	

都市ビジョン

- 都市ビジョン3  
さらなる可能性を追求する創造発信都市

「藤沢づくり」のめざす方向性

8 公共資産の維持管理と有効活用

ふじさわ未来課題

67. 移動や利用にあたり、誰でも利用できる道路や施設であること

**戦略目標21 誰にも優しいユニバーサルデザインのまち**

コメント: 少子高齢化社会を迎え、誰もが安全・安心して移動できる都市空間の形成が、いま求められています。  
子どもから高齢者まで、誰もが社会参画し、身近な地域の中でまちを散策し、様々なサービスを楽しみ、人との交流を深め、情報を発信していくために、生活拠点を中心とした移動空間の質的向上を図ります。  
また、地区と地区、都市と都市との移動を円滑にしていくためのアクセス機能や公共交通機関の機能強化など、市民、ボランティア団体、NPO、企業と行政などが協働・連携して、誰にでも優しいユニバーサルデザインのまちづくりを進めます。

成果指標: 移動や利用にストレスを感じていない市民の割合

現状値: % | めざそう値: %

69. 市民が利用する身近な施設が大切にされていること

**戦略目標22 未来に引き継ぐ公有財産と社会資本を有効活用するまち**

コメント: 藤沢市には、約78万㎡の公共施設のうち約52%の約41万㎡が、今後20年以内に機能更新、再構築が必要となります。  
また、都市のライフラインである公共下水道は約1,500kmで、今後20年間で整備後50年以上経過するものが約44%に達し、橋梁は189橋のうち、築30年以上経過した橋梁は111橋にも達します。  
更に、藤沢市が整備した都市計画道路、一般市道はあわせて1,354kmになり、今後逐次道路機能の機能更新を進めていく必要があるなど、社会資本の老朽化、陳腐化は藤沢市の財政構造を直撃する喫緊の課題となっています。  
課題解決のためには、公共資産の有効活用と公民連携の視点に立って、公共施設等の利用実態や老朽化、機能更新の時期を踏まえ、長寿命化対策や計画的な公共施設などの再構築、広域連携などを進めていく必要があります。  
また、地域のコミュニティ施設については、市民・地域と行政が協働・連携し、地域の公共資産の有効活用の視点に立って、地域施設の再構築を進めていく必要があります。

成果指標: 将来世代に社会資本が適正な状態で引き継げていると認識している市民の割合

現状値: % | めざそう値: %

71. 多様な連携を通じて、市民が望むサービスが提供されていること。

**戦略目標23 多様な主体が広域連携するまち**

多様化する市民ニーズへの対応や一自治体では解決が困難な問題に対して、近隣市町との様々な広域的連携により共通する都市課題を解決するため、広域連携によるスケールメリットと地域の特性を活かし、サービスの共同運営、防災、消防、救急、交通ネットワークや地域経済の活性化などを推進します。  
また、市民、市民ボランティア、NPO、大学、企業など、市域を越えた活動主体間の協働・連携によって、情報、生活支援、研究開発、サービス向上などの機能強化を推進するとともに、行政は多様な主体による多様な都市活動の支援のしくみづくりを進めます。

成果指標: 行政だけでなく多様な主体の連携が進んでいると感じている市民の割合

現状値: % | めざそう値: %

戦略目標

政策(検討中)

**商業、文化、公共機能などが集積した災害に強い都市拠点の再整備推進**

活動指標: 主要駅周辺の交通の利便さや活気を感じている市民の割合

現状値: % | めざそう値: %

役割期待値:

**人と環境にやさしい都市空間の構築**

活動指標: 公共施設や道路等街のバリアフリー化がされていると感じる市民の割合

現状値: % | めざそう値: %

役割期待値:

**衛生関連施設の老朽化対策の推進**

活動指標: 衛生関連施設に不便を感じていない市民の割合

現状値: % | めざそう値: %

役割期待値:

**都市基盤施設の長寿命化対策の推進**

活動指標: 市民生活に欠かせない社会資本が適正に維持管理されていると感じている市民の割合

現状値: % | めざそう値: %

役割期待値:

**湘南広域都市行政協議会などにおける広域連携の推進**

活動指標: 行政が広域的に連携することにより、質のよいサービスが提供されていると感じている市民の割合

現状値: % | めざそう値: %

役割期待値:

